

もくじ			
えび人 vol.104	2	文化会館	10
今号の表紙	3	相談	11
アメリカンフットボール		図書館	12
公式戦無料招待・体験会	4	子育て・HUGHUG赤ちゃん	14

「広報えびな」の共通マークとルール

日日時・日にち 期期間 時時間 場場所 対対象 定定員
 内内容 講講師 費費用 持持ち物 他その他 任任期
 条条件 主主催 Eメール ホームページ 問問合わせ
 申申し込み 予予約制 祝祝祝日・振替休日を除く 休休み

 高年齢者対象の教室など
  えびな健康マイレージ対象

市〇〇〇課への郵送…「〇〇〇課へ」とあるものは「〒243-0492海老名市役所〇〇〇課行」で届きます

市役所開庁時間…省略している場合は原則「月～金8時30分～17時15分」

今号の表紙

題字と写真は市民の方の作品を掲載しています。
 ご協力ありがとうございました。

題 字

えびな

体を動かすことが大好きです。
 上星小学校 上藤小晴さん(11歳)



写 真

タイトル：輝く雲
 撮影場所：史跡相模国分寺跡
 撮 影 者：国分南在住
 勝又郁恵さん



編集雑記

予定していた旅行が、飛行機の欠航で出発前日に急きょ中止。それでも気持ちを切り替え、別の場所へ旅行に行きました。観光スポットはAIに相談すると、次々とおすすめを提案してくれて、とても助かりました。予定通りにいかないことも、発想で楽しみに変えられると実感しました。次こそはリベンジしたいです。(そ)



(写真上) 災害ボランティアを続ける中で農業に環境改善の可能性を感じたという

(写真中) 青壮年部発表会の農業青年主張の部で「優秀賞」を受賞。テーマは「将来の世代に自然災害の少ない社会を」

(写真下) 仲間と一緒に消費者に野菜を届けられることも喜び



農業で災害が少ない 社会を次世代へ

「当事者意識を持って社会の課題に関わることで、人生がより充実したものになる」と小口さん。「その一つの選択肢として、農業を当たり前のように選ぶ人が増えてくれれば」と話します。

小口さんは東日本大震災以降、各地で災害ボランティアとして農地の手入れなどに携わり、農業の魅力にひかれていきました。会社員を続けながら週末は農業学校に通い、ボランティア活動も続ける中、出会った先輩の言葉が力となって農家への転身を決意。「後継者不足などの課題に向き合って、環境

に優しい土づくりをすることで、災害の少ない社会を次の世代に残したい」という思いを胸に、現在は市内幼稚園の収穫体験なども積極的に受け入れて地域交流も広がっています。「作った野菜がおいしい」と言われた時は、やっぱりシンプルにうれしいですね」

当事者として、今できることに目を向ける小口さん。農業を通じて未来への種まきを続けていきます。

今月のえび人

こぐちよしお
 小口宣夫さん
 (社家在住・46歳)

さがみ農協海老名市青壮年部委員長。令和4年にIT企業から農家に転身。農業教育機関での講話や、独自配信のラジオ放送やSNSなどで農業の啓発活動もしている。